



まどさんからの手紙 こどもたちへ

校長 田中 俊光

これは、童謡「ぞうさん」で知られる詩人まど・みちおさんから、ふるさとの徳山小学校のこどもたちに送られた手紙です。1994年5月 —、まどさん84歳のときのことでした。

<p>まどさんからの手紙 こどもたちへ</p> <p>…わたしも ちからいっぱい がんばるつもりですが わたしは もう 八十四さいの としよりです。 どんなに がんばっても たいしたことは できません。 でも みなさんは ちがいます。 みなさんが いま ぜんりよくを あげれば それは もう できないことは ありません。 どうか みなさん、 まいにち まいにちを むだに しないで げんきいっぱい やってください。 あそぶのでも べんきょうでも おてつだいでも どんなことでも げんきいっぱい やってください まいにちが たのしくなって いよいよ どんなことでも ほんきで やることが できるようになります。 むろん くるしいことや つらいことも あるでしょうが、 そんなことは あたりまえで、 その くるしいこと つらいことを ひとつずつ かたづけて のりこえていくとき、 こんな うれしい たのしいことは ないのです。 それを くりかえしているうちに みなさんは じぶんの なりたいような おとな、 だいすきな おとなに なるのです。</p>	<p>みなさんの せんせいも おかあさん おとうさんも みんな、 みなさんが そうしてくれるようにと ねがっています。 いや、せかいじゅうの おとなが そう ねがっています。 いやいや、ちきゅうが そう ねがっているのです。 うちゅうが そう ねがっている、 といったほうが ほんとうかも しれません。 なぜならば いま せかいじゅうに たべものが なくて しにそうな人は かぞえきれないほど います。 あつちに こつちに せんそうも たえません。 それどころでなく にんげんでない ほかのいきものたちは まいにちのように どんどん そのかずが へっていきつつあります どうぶつも しょくぶつも、です。 それらの どうぶつや しょくぶつのおかげで にんげんは たのしい 暮らしが できているのに、です。 みんな いまの おとなの ちからでは それらを なおしきれないのです。 こまっているのです。 せかいじゅうの みなさんのような こどもたちが はやく おとなに なって こうしたことを なおして ほしいのです。</p>	<p>ちきゅうぜんたいを すくって ほしいのです。 こどものうちに いまのうちから まいにち まいにち そうしてやろうと おもって げんきいっぱいに がんばっていけば それをやる ちからをもつ りっぱな おとなに になれるのです。 どんな ちいさなことでも ぜんりよくを あげて やる しゅうかんを つけるのが いちばん たいせつなのです。 まいにち まいにち げんきいっぱいに たのしく がんばってください。 けんかをして も なんとか あとで なかなかおりにして、 ほんとに だいじなことは みんなで ちからを あわせて やってください。 小学生は うまれてはじめての がっこうで、 たった 一かいきりの すばらしい「とき」です。 すっごい「とき」です。 ぜんりよく あげて がんばって ぜんりよく あげて たのしんでください。 じゃあね！ （「こどもたちへ」まど・みちお 講談社）</p>
---	--	---

まど・みちお

1909年、山口県生まれ。25歳のときに雑誌に投稿した詩が北原白^{きはらはくしゅう}秋にみとめられる。「ぞうさん」「やぎさん ゆうびん」「一ねんせいになったら」「ふしぎなポケット」「ドロップスのうた」など、多くの童謡で知られる。58歳のとき、初の詩集『てんぷらぴりぴり』（大日本図書）を出版。その後、数々の詩集を刊行。1994年に日本人初の国際アンデルセン賞作家賞を受賞。詩だけでなく、50代前半に集中的に描いていた絵をまとめた『まど・みちお画集 とおいところ』（新潮社）もある。2014年2月28日、104歳で永眠。

まど・みちおさんは、1909年の11月16日に、山口県都濃郡徳山町（現・周南市）で生まれました。本名は石田道雄^{いしだみちお}といいます。

5歳のときに、両親が、あたらしい仕事をみつけるために、兄と妹だけを連れて台湾にいてしまいました。のこされたまどさんは、5歳の春からの4年間を、おじいさんと二人だけすごしたのです。

そのあと、生活のめどがたった両親がまどさんを台湾によびよせて、家族みんなでくらすことができましたが、おじいさんと二人でくらしていたころのさみしさや、ものの感じかたが、まどさんの詩の原点になっています。そんなまどさんが、3年生までかよっていた小学校が、山口県の徳山小学校です。

— ある日のこと。母校の徳山小学校のこどもたちからまどさんへ便りがとどきました。まどさんは、こどもたちに返事を書きました。この手紙は、そのときの手紙です。ですから、手紙のあてさきは「徳山小学校のみなさんへ」と書かれています。けれど、それはまさに、すべてのこどもたちへ向けて書かれた手紙といえるものでした。

「本にして、たくさんの子どもたちが読めるようにしてもいいでしょうか」とおたずねしたとき、まどさんは「うれしいことです」と答えてくださいました。

まどさんは20代のころから詩を書きはじめました。「まど・みちお」という名前は、詩を書くときにつかうようになったペンネームです。

まどさんは、100歳になっても詩を書きつづけました。

詩だけでなく、絵も描きました。

まどさんは、子どもたちにわかる言葉で詩を書きました。

— 子どもたちにこそ、たいせつなことを伝えたい。

それが、まどさんの願いだったからです。

（講談社編集部）

ところで今年のノーベル賞は、旭化成の吉野^{あきら}彰さんが、化学賞を受賞しました。アメリカ、テキサス大学オースティン校のジョン・グッドイナフ教授、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校のスタンリー・ウィットティングム卓越教授との同時受賞です。パソコン、スマートフォン、電気自動車等に広く使われている「リチウムイオン電池の開発」^{すず}に対するものです。

吉野さんが化学に興味をもつきっかけは、小学校の先生が薦めてくれた一冊の本、イギリスの科学者、マイケル・ファラデーの「ロウソクの科学」だったそうです。